

つどう

まなぶ

むすぶ

福井市の公民館



大安寺
公民館

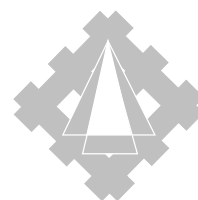
日新
公民館



上文殊
公民館



第3号



福井市公民館一覧

ブロック	No.	館名	所 在 地	電話番号	掲載号	ブロック	No.	館名	所 在 地	電話番号	掲載号
あたご	1	木 田	木田1丁目1401	36-0042		光	28	安 居	本堂町7-4	37-1234	
	2	豊	みのり3丁目106-8	34-0344			29	一 光	下一光町6-5	37-0168	
	3	足 羽	足羽2丁目12-31	35-0041			30	殿 下	風尾町1-13	97-2377	
	4	湊	学園1丁目4-8	22-0032			31	越 廼	栄崎町1-68	89-2182	
不死鳥	5	春 山	文京3丁目11-12	22-0057	2号		32	清水西	大森町20-43-1	98-4560	
	6	宝 永	松本4丁目8-4	22-0036			33	清水東	三留町14-11-1	98-4510	
	7	順 化	大手3丁目11-1	20-5458			34	清水南	風巻町21-17	98-4590	
	8	松 本	文京1丁目29-1	22-0085			35	清水北	グリーンハイツ5丁目131	98-5477	
	9	日之出	四ツ井1丁目7-24	54-0040		川西	36	大安寺	四十谷町5-20-1	59-1001	3号
	10	旭	手寄2丁目1-1	20-5364			37	国 見	鮎川町195-7	88-2004	
みなみ	11	日 新	文京5丁目1-8	21-7225	3号		38	鶉	砂子坂町5-58	83-0433	
	12	清 明	下荒井町8-414	38-0043			39	棗	石橋町4-14	85-1495	
	13	東安居	飯塚町6-18	35-9566			40	鷹 巣	養町16-2-1	86-1001	
	14	社 南	種池2丁目206	35-9559			41	本 郷	荒谷町19-55	83-0582	
	15	社 北	若杉4丁目308	35-9111	創刊号	足羽	42	宮ノ下	島山梨子町22-9	59-1150	
	16	社 西	久喜津町65-23	34-7910	2号		43	酒 生	荒木新保町37-9-5	41-2503	
あずま	17	麻生津	浅水三ヶ町1-93	38-4383			44	一 乗	西新町1-31	43-2001	
	18	和 田	和田東1丁目1504	22-0038			45	上文殊	北山町34-1	41-0516	3号
	19	円 山	北今泉町7-12	54-0048			46	文 殊	太田町4-11-2	38-0550	2号
	20	啓 蒙	開発1丁目2105	54-0046			47	六 条	天王町43-4	41-1001	
	21	岡 保	河水町10-13	54-2519			48	東 郷	東郷二ヶ町6-13-1	41-0306	
	22	東藤島	藤島町48-1-1	54-0039			49	美 山	美山町2-12	90-7111	
九頭龍	23	西藤島	三郎丸1丁目1410	22-0040			50	中 央	手寄1丁目4-1	20-5459	創刊号
	24	中藤島	高木北2丁目1001	54-0045							
	25	河 合	川合鷺塚町9-18	55-0001							
	26	森 田	下森田藤巻町2	56-0195	創刊号						
	27	明 新	灯明寺町35-1-1	22-7880							



《福井市の公民館に思う》



16年のひとこま

元県公民館連合会会長
元市公民館連合会会長
前湊公民館館長

坂 上 泰 学

平成 11 年 4 月、湊公民館長に就任以来 16 年に亘り公民館人として勤めてまいりました。

我が家から歩いて 10 分の公民館に着くまでに、いろんな人との出会いがあり、挨拶や立ち話がありました。私は、お酒が好きで、夜の会合後には誘われるままお付き合いをしました。そのため地区の情報には事欠かず、私の情報源でした。その中に、「公民館の調理室は汚い」、「和室の畳の粉がつく」との声がありました。公民館の環境の整備が必要だと思い、地区の公民館運営審議会や自治会連合会に動いてもらい、平成 14 年には全面増築することが出来ました。

仮公民館を三秀プール管理棟に移し、業務をはじめましたが、そこにはすばらしい「桜並木」がありました。そこで、地域のコミュニケーションの場と誇るべき財産を地区内外にアピールする場をと、「出愛・振れ愛・学び愛」をテーマに「越前湊さくら祭」を実施しました。今年で 13 回目となり地域資源の育成につながっております。

また、この増改築のため、「公民館まつり」を、湊小学校を会場にし、湊小学校・同 P T A と共催で「湊フェスティバル 2001」として開催しました。公民館完成後も公民館・小学校の両方を会場として実施しており、各種団体総参加となり、学校教育と社会教育の合体が生涯教育の場につながっています。

ちょうどその時期に、市公民館連合会（市公連）会長を引き受けました。平成 15 年に設置された市町村合併が議論されており、公民館の運営管理体制を市長部局の自治組織、N P O、指定管理者制度等に委ねる検討がされておりました。市公連は、現福井市方式が全国的にも優秀で、合併後もこの体制を継続するよう、全公民館あげて大々的に署名運動を展開しました。その熱意が実り、現在もこの制度が続いています。

さらに、福井市公民館職員共済会退職積立金の課題がありました。この制度は、昭和 46 年に開始されました。これまでの基金と個人負担とで運用してきたもので、当初はスムーズでした。しかし、年々早期に退職される方が増え、加えて低金利となるなど、合併時には「果実のならない枯木」をかかえている心境でありました。数度の検討会を重ねつつ、最終的には、館長さん方のご理解を得て、公平配分額を決め解決をみました。この陰には、一光公民館長竹田法英氏、元市公連事務局佐藤藤枝氏をはじめ、多くの皆様のご理解とご協力があったからこそと、私の 16 年間の中での大きな思い出となっております。

学校・家庭・地域を結ぶ『お米とワラ』

— 交流事業の取組 —

上文殊公民館

1 上文殊地区の概要

上文殊地区は福井市東南部に位置し、東には一乗谷、東郷地区、西には文殊山などの山々に囲まれている。また、江端川の最上流部に位置する、美しい自然と豊かな水に恵まれた大変静かな田園地帯である。

養老元年（717）ごろ、泰澄大師は文殊山を御開山、現在の徳光、東大味に神社を御開基された。また、奈良時代には、上文殊、文殊地区にまたがり東大寺莊園『糞置荘（くそおきのしょう）』が造られた。

東大味には、南北朝時代激しい戦いがあった三峯城跡、明智光秀公が朝倉義景に鉄砲指南役として東大味に移住していた時の屋敷跡、更に、明智光秀公の木像を祀った明智神社等、多くの文化財が残されている。

2 東大寺お米送り事業

奈良時代の東大寺莊園『糞置荘』の古図は、今も正倉院に御物として残されており、現在の地図と一致していることで知られている。



【足羽郡糞置村 開田絵図 天平神護2年（766年）】

また、東大寺の建立時に、足羽郡一の豪族である生江臣東人（いくえのおみあずまん）が役人として参加した。さらに、大仏殿を建てる大工の監督の一人として、足羽郡出身の益田縄手（ますだのなわて）が参画している。

これらの史実に基づき、平成11年より『東大寺お米

送り』事業を、上文殊地区総合開発委員会を中心に実施している。

献上米はコシヒカリを昔ながらの手法にこだわり、手植え・無農薬・天日干しで収穫を行っている。お田植式、刈り取り式では、献上田にて五穀豊穡を願う神事を行い、その後地区住民と小学生、一般参加者と共に田植えや稲刈りを行う。平成27年で17年目を迎え、地区内はもとより地区外にも広く知られた事業となっている。



【東大寺秋の大祭参列者 光明皇后法会】

3 『お米とワラ』～三世代交流事業を通して～

平成20年度より「学校・家庭・地域住民」が互いに連携し、全員参加で伝統文化を継続、体験する事業『三世代交流～お米とワラ～』を開催している。

地域の高齢者から教わる稲の生長観察や、ワラを使った数々のワラ細工を編む世代間のふれあいは、上文殊地区にしかない互いの学び場となっている。

季節感を味わいながら、年間を通じて交流するこの3つの事業を紹介したい。

	稲の生長観察	技の伝承	三世代交流
期間	田植え～刈り取り～精米	8月、9月、11月	2月
関係スタッフ	地域ボランティア（5名）	ふるさとの達人、老人会 地域ボランティア（15名）	ふるさとの達人、老人会 PTA、地域ボランティア（70名）

(1) 稲の生長観察

週一回、小学5年生を対象に稲の生長観察を地域ボランティアと共に実施。田植えから収穫、さらに籾すりや食味までを体験することにより、地域の特産であるお米への愛着を持たせている。この生長記録を、2月の「三世代交流」の場で発表するために、継続した観察を続けている。

(2) 技の伝承

はさばたてや、ワラ細工、しめ縄作り等を高齢者が小学生を対象に伝承している。

技を次世代に継承するため、高齢者自身が指導方法をふるさとの達人から学び、事前学習をしたうえで、子どもたちに伝えている。地域の素晴らしさ、人の温かさを感じられるよう、互いの学びの場としている。

地域の高齢者が先生となり、普段体験したことのないことを教える難しさ、伝えることの大切さをこの事業から学んでいる。

【はさばにあがり作業をする子どもたち】



【ふるさとの達人に細縄編みを習う】

(3) 「三世代交流」

お米送りの里上文殊の一年の集大成といえる事業である。

5年生による稲の生長観察発表や、お米の学校。高齢者から親子で学ぶかきもち編みや、縄結び。また、収穫したお米を使ったポン菓子の実演と試食を実施している。過去には農機具を地域から集め、展示や作業体験、この地域に伝わる味『アッポ（くず米の団子）』

の再現や伝承料理の試食など、年々工夫を凝らした取組になっている。この日一日で五感をフル活用して楽しめる事業である。

4 新しい公民館

平成26年に完成した新公民館は、外観は『お米送りの里』上文殊にふさわしく『米蔵』をイメージしつつも、現代風に造り上げている。1階のホールは、大きな窓を全て開放することで、広いホールと外のスペースを一体化して利用することができる。新しくなった公民館のお披露目をかねて催したオープンフェスティバルでは、公民館を利用している自主グループや若者グループ、地元の小中学生、そして当地区にゆかりのある団体が様々な活動を披露した。



【建物を開放し、効果的に活用している】

公民館の玄関に入ると、東大寺別当書の『お米送りの里』と書かれた木彫りの看板が出迎える。また、大ホールには東大寺から新公民館建設に際し、寄贈された東大寺大仏殿の瓦（のき瓦、平瓦）が展示されている。これらは東大寺とのつながりを示す貴重な展示品として、地区外の来館者にも強い印象を与えている。

生涯学習の場、さらに地域コミュニティ機能の保持・活性化を図る場として、また、住民の融和親睦を図るオアシスとして『笑顔と温かい心で信頼される公民館』をめざしている。

公民館が地区の歴史や事業に密接に関わっており、次世代を担う子どもたちを豊かな自然の中で大切に育てていることがうかがわれます。公民館新築を機に、ますます公民館が地域づくりの拠点となることを願っています。

泰澄大師の昔より えにしゆかしき大安寺

— 知ろう学ぼう継ごう文化の町 —

大安寺公民館

1 大安寺地区の概要

(1) 地区の紹介



【上空から見た大安寺地区】

福井市街から北西へ6 km。ゆったりと流れる九頭竜川と、萬松山の山並みに囲まれた自然豊かな地区である。

昭和32年に上区と呼ばれた南檜原、北檜原、田ノ谷、四十谷、岸水、天菅生が福井市に編入され、

昭和42年川西町の福井市編入により、福井市の一地区となった。昭和48年に団地造成が始まり田ノ谷新町、四十谷新町第一・第二の3町が増え、昭和53年には南檜原の県住宅に入居が始まり、現在の10町となった。

古くは紙すきや撚糸、織物が盛んであったが、現在はリサイクル紙の製紙工場が1軒あるのみである。また、温泉施設が地区内に2か所あり、区民及び市民の憩いの場となっている。米作を中心とした農業も行っているが、兼業の勤労者世帯が多い。

平成27年8月1日現在で、世帯数416世帯、人口1,283人（男621人、女662人）となっている。

(2) わがまちの名称「大安寺」の由来

この地には、奈良時代に「越の大徳」と呼ばれた泰澄により創建されたと伝えられる「竜王山田谷寺」が存在し、坊舎が48坊もあるほどに栄えていた。しかし、天正2年（1574年）に織田信長の越前侵攻により全山が焼失した。

万治2年（1658年）、この跡地に第4代福井藩主松平光通公が、松平家歴代の廟所として「大安禅寺」を創建した。奥まった山腹には、千畳敷と呼ばれる歴代藩主の墓所のほかに幕末の歌人「橘曙覧」の墓碑や、種痘の神様「笠原白翁」の墓がある。わがまちの名は、この松平家菩提寺の「大安禅寺」に由来する。

2 公民館の活動

(1) 大安寺っ子くらぶ

従来、子どもの育成に関する事業は各団体が個々に進めていた。そのため、行事の日程が重なり、子どもの取り合いになってしまうことが少なくなかった。

そこで、会合や行事等の機会を捉え、公民館から学校・PTA・育成会等に「連携」の呼びかけを行った。その結果、相互に足りない部分を補いながら活動することを目的として、平成16年4月に、子ども教室実施団体として「大安寺っ子くらぶ」が設立された。子どもに関する各種事業がスムーズに行われるだけでなく、そのことにより子どもの伸び伸びとした成長に大きな力を発揮してきている。10年余りが経過した現在は役員の世代交代が大きな課題となっている。

(2) 合宿通学

平成17年度から小学4年生～6年生を対象とした「合宿通学」を実施している。10月中旬に3泊4日の日程で、子どもたちは親元を離れて共同生活を行う。身の回りの整理整頓・食事の準備や後片付けなどの生活習慣を身につけ、班毎に行動することで自らのリーダーシップを養い、団体生活での協調性も身につけてきている。

保護者のみならず、地区のボランティアと子どもたちが顔なじみになり、見守り等の充実に繋がっている。

しかし、公民館で地区民への声かけや保護者への通知を行ってきているが、毎回のボランティアの確保に苦慮している。



【合宿通学中の登校風景】

(3) イルミネーションでの交流の場づくり

公民館を地域の交流の場として広く周知してもらう働きかけとして、クリスマス用のイルミネーションの装飾を計画し、「大安寺っ子くらぶ」の役員に呼びかけ、平成 21 年度より実施している。11 月中旬に作業を行い、クリスマスまで点灯をしている。

始めた頃は、装飾作業に参加した人数は親子連れが 20～30 名程度であったが、平成 26 年度には、親子連れだけでなく地区の方々も加わり、110 名の参加者で賑わった。全員で声を合わせてのカウントダウンは夜空に響き、イルミネーションが点灯し闇夜に輝いた。シチューで身体が温まる頃には会話が弾み楽しいひとときとなった。

子どもの事業にとどまらず、このイルミネーション点灯による交流の場づくりが、公民館事業や地区事業への参加に、ひと役買っていると言える。今後も交流の場として継続しながら、地域の行事として位置付けていきたい。



【イルミネーションでの交流会】

3 地区の事業

(1) エコキャンドルと竹灯籠 IN 大安禅寺

住みよい町づくり委員会が中心となって、大安禅寺境内に隣接している独鈷水（とっこすい）公園を清掃活動・桜の苗木の植樹などで整備し、広く地域に知ってもらう活動を進めてきた。平成 23 年度からは、地区の宝でもある大安禅寺に、より親しみをもってもらうため花菖蒲祭り期間中に、エコキャンドル祭りを開催してきた。

廃油を使ったキャンドル作り、竹の切り出し、児童・生徒、地区のお年寄りによるイラストの灯籠作りなど、準備から多くの人が関わり、祭りを盛り上げている。



【エコキャンドルと竹灯籠】

花菖蒲に灯籠の明かりが映え幻想的な雰囲気の中、演奏会を開き、たくさんの人が楽しめる地区のイベントになっている。しかし、地区内限定のイベントとなっており、地区外への発信は、受け入れの規模を考えると難しいため、今後の方向性については課題となっている。

今年は、火を取り扱うことへの危険性を考慮して LED キャンドルに変更して、8 月 22 日（土）に、大安禅寺の地藏盆に併せて竹灯籠祭りを開催した。

地藏盆とは、地藏菩薩の縁日。地藏菩薩は昔より子どもの守り仏として信仰されており、地藏盆においては特に子どもが地藏の前に詣り、そのご加護を祈る慣わしになっている。大安寺地区が古来より越前和紙の紙漉きが産業だったことを受け、和紙のお地藏さんに絵付けを施し、自分だけの可愛い「わらべ地藏さんづくり」をし、所願祈祷も行っている。

4 おわりに

「先人たちが残してきたものを風化させるのではなく継承し続けることが大事であり、地区への理解や人との繋がりをもてる場をつくっていききたい」という思いから各種事業を計画してきた。地区の人たちへの定着ができてきているという実感はあるが、課題も多くある。今後、これらの事業をさらに発展させることで、より多くの住民の方の理解と参加を図っていききたい。

「大安禅寺」という文化遺産を活動の中心に据え、「地区民のふれあいの場づくり」を意図した大安寺公民館の事業は、着実に成果を上げてきているように思います。特に、公民館が中心なり、各団体が一体となって進められている子どもに関する事業は、子どもへの思いと「人と人との強いつながり」が感じられ、素晴らしい取組だと感じました。

いいとこのばそう わがまち日新

日新公民館

1 日新地区の概要

日新地区は、福井市の中心から北西に位置し、いわゆる市街化周辺地域である。農村の宅地化に伴う人口増により、昭和 51 年に日新小学校開校とともに、既存の 3 地区（西藤島・春山・湊）のそれぞれ一部を分割・合併して誕生した比較的新しい地区である。同時に開館した本公民館やその後立ち上げられたまちづくり組織において、地域の課題や住民のニーズを捉えた様々な活動が活発に展開されている。それぞれの地区で培われた環境、歴史、文化の違いや、新しい住民が増えていくという状況を生かしながら地域づくりが着実に進められてきている。

現在は、人口は横ばい、少子高齢化が徐々に進行するという状況である。（平成 27 年 7 月 1 日現在、人口 5,419 人、世帯数 2,301 戸、高齢化率 26.6%、後期高齢化率 13.5%）

2 特色ある取組

(1) 「日新かるた」に係わる一連の取組

「日新かるた」は、郷土の魅力を再発見して後世に伝えていくことを目的として作成された。平成 21 年に読み句を地区民から募集し、12 人の委員が 1 句 1 句吟味し、地理や歴史の検証をするなど修正し、約 8 か月がかりで完成した。翌年には、市内各公民館や地区の小・中学校等へ解説書付で配付された。

この「日新かるた」には日新地区のいろいろな顔や風土が読み込まれていて、これをもとにここ数年をかけて様々な活動を行ってきた。

平成 24 年度には、かるたに読まれている地域の名所が人目でわかるように大きな立て看板「日新かるたマップ」を公民館前に設置した。（かるたに取り上げられていなかったいくつかの名所も、当時採用されていなかった応募句と共に掲載した。）

また、平成 25 年度には「日新かるたマップ」に示された名所を見て歩くために、写真と解説文と 3

つのコースが掲載された冊子「日新かるた見て歩きMAP」を作成した。

【日新かるたマップ】

【日新かるた見て歩きMAP】



【案内看板】→



さらに、平成 26 年度には、コースを散策した人がより理解を深められるように名所 15 か所に、かるたの読み句などが書かれた「案内看板」を設置した。

これらの活動は、「いきいきライフセミナー」（成人教育学級・郷土学習に関する事業）の取組の一つとして行われ、それぞれの完成までには、年間 20 回以上の会合が持たれた。

また、日新地区の名所を巡る活動は、小学生の総合的な学習や高齢者の健康増進を図る行事に取り入れられるなど、様々な活用されている。

(2) 底喰川の清掃・美化活動

底喰川は、昭和 57 年より河川改修工事が行われていたが、大変汚染された状態であった。平成 7 年度よりまちづくりの一環として、底喰川の環境美化に視点を当てて事業化して取り組むようになった。以来、「学習会」「先進地視察」「清掃活動」「源流を訪ねるウォーキング」「高水路（河原）と低水路の建設の要望」「高水路への草花植え付け」等、たゆまなく取組が進められ、環境は大幅に改善された。

現在は、「地域の誇り・まちづくり日新」環境部会が主に企画・運営を行い、地区民全体に呼びかけて実施している。主な活動としては以下のものがある。

○定例清掃は、3 月～11 月まで毎月第 4 日曜日に行われる。毎回平均 30 名前後が参加している。



【藤島中生による清掃活動】



【住民による清掃の様子】

- 一斉清掃は、3月、7月、11月に、市のクリーン作戦に合わせて、自治会連合会主催で実施されている。毎回平均150名前後が参加している。
- 定例の清掃では対応が遅れがちになることから、ボランティアが臨機応変に除草作業等を行っている。
- 福井商業高校では、平成25年度より、同校の家庭クラブ委員会やJRC部が生徒への呼びかけをし、毎年6月後半頃に清掃活動を行っている。27年度の参加者は250名で、年々増加している。藤島中学校でも、26年度より総合的な学習の一環として、11月中旬に清掃活動をしており、26年度の参加人数は120名であった。27年度以降も活動を予定している。
- 高水路及び河川周辺の草木や花壇の手入れも清掃活動と併行して行っている。
- 平成12年に、底喰川岸辺に水の浄化作用がある湿性植物、約150株を植えた。これは、「地域の人に実際に岸辺に下りて植物を植えることで、美しい環境づくりの必要性を理解してもらおう」と、日新公民館が企画して行った。植えられたミソハギや花ショウブ等は、季節になると見事な花を咲かせ、現在では地区のシンボルの一つとなっている。



【底喰川ウォッチング】



【見事なミソハギの花】

- 環境の大幅な改善により、きれいになった底喰川に親しむ活動として、「底喰川ウォッチング」（公民館主催）や「生き物観察会」（環境部会主催）を実施している。子どもたちが周辺の動植物や水中の生き物の採集・観察をするよい機会となっている。「生き物観察会」で見つけた生き物を子どもたちが絵にし

て、公民館内に掲示してある「底喰川鳥かん図」に貼り付け、訪れた住民の目を楽しませている。

(3) コミュニティバス（日新さんさんバス）の運行

平成22年5月、地域の交通弱者の買い物や通院の利便性向上を目指して、「コミュニティバス」の準備を開始した。「先進地視察」「地域住民へのアンケート」「コース・ダイヤの検討」等を行った。

- 平成24年11月5日、満を持して試行運行が開始されたが、月乗車人数が200名前後と低迷した。

（下表①）

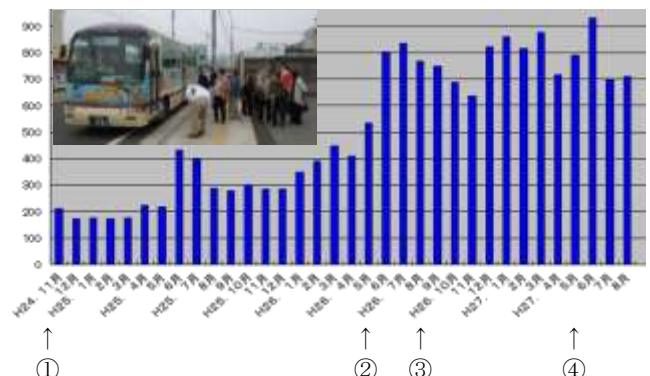
- 平成26年5月10日、ルート及びダイヤを大幅に改訂した。改訂のポイントは以下である。（②）

- ・8の字コースを周回コースにする。
- ・隣の春山地区の田原町商店街をコースに含める。
- ・公民館利用者が使いやすいダイヤとする。

- ルート及びダイヤ改正が功を奏し、乗車人数が800人台になったことから平成26年8月7日、異例の試行運行1年間延長が決定された。（③）

- 乗車人数が安定的に増加したことにより、平成27年5月21日に、同年10月より3年間の本格運行が決定された。（④）

【月別乗車人員数（横軸：年月 縦軸：人数）】



3 おわりに

ここでは触れることが出来なかったが、まちづくり文化・広報部会や自主防災連絡協議会ははじめ多くの組織においても熱心な取組が様々に行われている。これら日新のよさがますます発展するとともに、また、地域の方々の力が最大限に発揮できるようにしていくのが公民館の大きな役割であると考えている。

公民館が将来を見据えて進めてきたことが、環境に対する地区の方々や小・中・高等学校の児童生徒の高い意識と活発な取組につながったものと強く感じました。また、それが他の面でも発揮されていることが素晴らしいと思いました。

資料

福井市の公民館のあゆみ（その2）

3. 福井市公民館設置条例（昭和25年1月18日）

昭和24年6月10日 社会教育法公布

昭和25年1月18日 福井市公民館設置条例制定

第1条 本市は社会教育振興及び地方文化の向上を図ると共に、平和産業復興の基を築くため公民館を設置する

「福井市公民館」が設置される（本館と10分館）

本館＝市役所内に設置、市長が管理、公民館運営審議会委員25名（任期2年）

分館＝東部分館（東部会館内）、西部分館（西部会館内）、南部分館（南部会館内）、北部分館（北部会館内）、

木田分館（板垣農業共同作業所内）、東安居分館（東安居小学校内）、啓蒙分館（啓蒙小学校内）、円山分

館（円山小学校内）、和田分館（和田小学校内）、西藤島分館（西藤島小学校内）

公民館活動の重点目標＝①分館活動の確立②講和後の国民意識の向上③レクリエーションの普及 ④生活改善・結婚簡素化の奨励 ⑤定期講座、グループ活動の促進

昭和25年4月1日 社会教育課を新設（福井市の社会教育の拡充を図る）

昭和28年7月10日 福井市公民館本館建設

福井市公民館の本館が、現在の中央公園北東部に婦人青年会館と並んで木造2階建てで建設された。1階に事務室、図書室、管理人室、講義室など5室と、2階に講堂、会議室があり、法律・結婚相談室にあてられた。

昭和29年10月 第一回公民館主事会議（現在の主事会の前身）を開催

4. 昭和30年代の福井市の公民館活動（公民館活動の基礎の確立と成長期）

市街地区で独立公民館設置運動がおき、周辺部でも地域ぐるみの社会教育総参加運動へと盛り上がりをみせるようになってきた。運動会や各種スポーツ大会、夏まつり、敬老会等も地域ぐるみの活動として誕生し、美化活動も地域ぐるみで行われるようになった。公民館が住民に認識されるようになり、活動が本格的に軌道にのってきた。

昭和34年 「福井市社会教育機構の改革案」が分館連絡協議会より提案される

＜半官半民であり民主的であるといわれる現福井市公民館制度の基礎となっている。＞

内容 ①地区分館をそれぞれ地区独立館とし、本館を廃して並列型設置体系に改編する。地区公民館の設置区域は小学校通学区区域と一致させる。

②各公民館の連絡協議体として、市公民館連絡協議会を設置し、事務局を市青年の家に置く。事務局員は青年の家職員とし、各公民館の連絡協調事務とあわせ各公民館の共同事務（たとえば公民館結婚式、結婚相談、法律相談等）を行う。

③地区公民館の経営は、活動に応じて支出する市の委託料と各館一定の運営費とし、その他の経費は、地区社会教育会、町内会等の共催負担金または寄付金の補充を期待する。

④公民館の活動は、事業の計画及び推進は地区の実態に即して実施することとし、活動経費の予算的制約もあるので市教育委員会として抽象的大綱は示すが、その実施方法・内容等の具体的なことはすべて地区の自主的運営に任せる。対象の固定化、活動の上すべりを避けるため学校、寺院、会館、個人宅等あらゆる場所を活動の場とする町内活動、グループ活動を促進し、活動の末端浸透を図るよう期待する。

⑤職員機構では、館長は非常勤嘱託職員として原則民間人を登用する。主事は現在の指導員制を廃し、市教委の嘱託職員として主事1名を置く。非常勤の形をとり月額一定の報酬を支給する。主事の任用は、市教委の定める一定の講習を修了した者のうちから、当該地区公民館運営審議会の推薦により任用する。

昭和35年4月1日 「社会教育機構の改革案」を受けて、「福井市公民館設置及び管理等に関する条例」が施行

地区公民館運営審議会が地区館ごとに設置（委員構成は、学校長、社会教育関係団体代表、産業

団体代表、学識経験者(町内会長等)で定数は10名）

昭和35年 福井市公民館連絡協議会を設立（24館の館長主事による）

公民館メールマガジンのご案内

福井市の全公民館でメルマガ会員を募集中です。
各公民館の「毎月の行事予定」「教室・催し」「お知らせ」
など月に1、2回メール配信が届きますので、ぜひご活用
ください。
空メールを送るだけで簡単に登録できます。

右のQRコードを読み取って
希望の公民館を選び、空メールを送信
↓
返信メールが届けば、登録完了です



※メルマガの登録は無料です。但し、メールの受信に要する
パケット通信料は発生します。

<このようなメールが毎月届きます>

〇〇公民館〇月

行事予定のお知らせ☆♪

■3日(木) 10:00~12:00

子育てサロン

「なんでも相談会」

■12日(土) 13:00~

運転者講習会

「安全知識を習得しよう」

■25日(金) 9:00~11:30

環境美化研修会

動きやすい服装でご参加
ください！

■公民館まつり〇月〇日開催

展示作品を募集中！

第3号 掲載館

公民館名	住所	電話番号	メールアドレス
上文殊公民館	〒919-0317 福井市北山町34-1	(0776) 41-0516	kmonju-k@mx1.fctv.ne.jp
大安寺公民館	〒910-0043 福井市四十谷町5-20-1	(0776) 59-1001	daianj-k@mx1.fctv.ne.jp
日新公民館	〒910-0017 福井市文京5丁目1-8	(0776) 21-7225	nissin-k@mx1.fctv.ne.jp

福井市の公民館 第3号編集委員

中央公民館運営審議会委員

生涯学習室

社会教育指導員

中央公民館

稲田 勝子・鋸屋恵美子

山本 麻子

小林 修二・稲葉 友昭

吉田 郁子

平馬 吉隆・小清水直美

田村 榮子・塩崎めぐみ

公民館の歌 (自由の朝)

後落は ♩ -104

山口晋一 作詞
下総皖一 作曲



公民館の歌 (自由の朝)

山口 晋一 作詞
下総 皖一 作曲

- 一. 平和の春に あたらしく
郷土を興す よろこびも
公民館の つどいから
とけあう心 なごやかに
自由の朝を たたえよう
- 二. 心の花の おやかに
郷土にひらく ゆかしさも
公民館の つどいから
希望を胸に 美しい
文化の泉 くみとろう
- 三. 働くものの 安らかに
郷土に生きる たのしさも
公民館の つどいから
まどいになごむ ひとときに
明日への力 そだてよう

福井市の公民館

監修 福井市生涯学習室
発行 平成27年10月
福井市中央公民館
〒910-0858
福井市手寄1丁目4-1
TEL 0776-20-5459
FAX 0776-20-1538
Eメール: cyuou-k@mx1.fctv.ne.jp
<http://www1.fctv.ne.jp/~cyuou-k>



福井市の花 あじさい